100号を祝して

千葉県副知事　広報協会長　川上紀一

「広報やちまた」一〇〇号記念発刊おめでとうございます。

ひとくちに一〇〇号といっても、創刊が昭和二十九年といえばとですから、十三年という永い年月にわたってしんぼう強く発行が続けられてきたわけで、ほんとうに大変なことだと一言につきます。

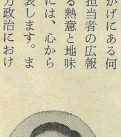
しかも、このような数字的な偉業ばかりではなく、県広報協会が主催する広報紙コンクールに数回にわたって上位入賞してきたという実績が示すように、内容的にも常に前進しながらの完成した一〇〇号は、県内市町村広報紙の模範とするにふさわしいものだといわねばなりません。

この「広報やちまた」のかがやかしい歴史のかげにある何代もの担当者の広報に対する熱意と地味な努力には、心から敬意を表します。また、地方政治における広報の価値を認識し、この広報紙を通じて町政と住民の深いむすびつきを実現してきた八街町に、血のかよった民主政治の典型をみる気持です。

よく言われる民主政治という正しい政治のあり方も、それが現実に理想的な形で行なわれるためには、行政のありのままを住民に伝え、そこからかえってくる住民の声をさらに行政に反映させるということが基本となります。広報が民主政治に欠くことのできない存在だとわれる理由もここにあるわけです。このことは、住民との直接的な関係がより密接になってくる地方自治においてさらに重要な意味をもってくるわけですから、市町村は今日の政治形態にあっては、広報ないしその媒体としての広報紙のもつ役割りは非常に大きなものだといえましょう。

しかし、実際の問題としては、他の行政の分野と異なり、その効果が必ずしも目にみえるものとしてあらわれてこないということもあり、さらに限られた予算と人員の問題からのびなやんでいるのが現状だといわれます。このような状勢にあって、「広報やちまた」の一〇〇号発刊は、単に貴町にとって大きな意義をもつだけでなく、戦後全く新しい分野としてとりくんできた広報全体の立場からもはげしくするものです。

いうまでもなく、広報紙の実績は、一〇〇号の偉業を完成するのではなくて、さらに継続してスタートしていただきたいものです。この記念号を出発点にして、さらによりよい「広報やちまた」を、すみよい八街町をめざしてスタートしていただきたいと願っております。



八街町議会議長　日暮信夫

「広報やちまた」一〇〇号記念の発刊をからお祝い申し上げます。戦後言論の自由が保障され、PRへの認識が普及するにともなって、あらゆる分野の機関紙活動が目立って活発であります。これらの機関紙はその発行の目的などに相違はありますが、共通した点は親しまれる、読まれるものにしたいということであろうと思います。「広報やちまた」も、昭和二十九年創刊以来十三年の永い年月を、編集関係者は親しまれる広報紙にしようと、情熱を傾け地味な努力を続けた結果が、県広報協会が主催する広報紙コンクールにも数回入賞という偉業をなしとげ、名実ともに立派な広報紙に成長させたわけであります。関係者各位に対して、心から謝意を表するものであります。民主政治の基盤であるといわれる地方自治、町行政の真の姿を住民の方々にお知らせし、住民からの盛上る声を基とした町政が運営されることこそ住民自治の本来の姿でありますので、その意味において「広報やちまた」の果す使命は誠に大であります。町議会でも昨年六月定例議会から定例会ごとに議会報を発行して議会審議の状況をお知らせしておりますが、一部の方々から喜びの言葉、貴重なご意見、あるいは激励の言葉などいただいております。

「広報やちまた」は議会が議決したものを執行する執行機関の仕事を伝え、議会報は議決機関としての仕事を伝え、紙面の内容とそ違うが両者併せて始めて、八街町政の全貌を住民の方々にお知らせすることになると思いますので、今後本町の飛躍的な発展のため、町政と住民の深い結びつきの橋渡しとしてさらに御精進いただきまして、議会報と、共々に益々充実した親しまれる広報紙となりますよう祈念して、お祝いの言葉といたします。

農業委員会委員無投票当選

農業委員会委員選挙の投票は、七月十五日に予定されていましたが、各選挙区とも立候補者が定員をこえなかったので投票は行なわれませんでした。

そして、七月十六日に選挙会が行なわれ、八街町農業委員会の選挙による委員は、次のように当選が決定しました。

第一選挙区　加藤善雄（五区）
岩品要（六区）　石川伴次郎（大東区）
第二選挙区　檜垣敏雄（夕日丘）　赤木廉一（西林）
第三選挙区　野崎治雄（住野）
繁田銀次（文遊）
第四選挙区　川口定男（沖）
鶴岡忠（滝台）　田上稔（四木）
第五選挙区　山本匡（上砂）
加藤新一（吉倉）　中村八重吉（用草）　山本雄（小谷流）

議会推せんの委員

七月十九日に行なわれた臨時議会で、次の四名のかたが、農業委員会委員として推せんされました。

柿沼虎之助（一区）　本多多衛知（四区）　三須純一郎（榎戸）
小出周一（大関）

そして、これらのかたは、町長から委員として選任されました。

農協等の理事

このほか、次のかたがたも、委員として町長から選任されました。

池田亀治（農業共済組合理事）
山本義男（八街農協理事）
長妻敦一郎（南部農協理事）

広報やちまた

町の広報（PR）紙がこのたび百号目をむかえることは誠に喜こばしいことで、ここまで刊行を続けてこられた担当諸氏のご努力に心から敬意を表する次第である。

PRという言葉はすでに誰でも使う日本語として通用するが、用語となり夫々の場所で各様に用いられているが、その意味は、周知のとおり、公衆や団体のメンバーに知らせるということで、発生の地アメリカでは、官庁や会社、商店等が一般市民公衆や従業員や お客さんに内容を伝達し、更に進んで方向を正してゆく活動を総称した言葉として使われているとのことで、民主政治又は経済発展の手段として生まれ、発達してきたものである。

語源の前おきが長くなったが折角いただいた投稿の機会でもあるので日常考えている私見を二、三申しのべ、ご批判をいただきたい。

まず第一に広報は単に知らせるということの他に、それがどのように信用し理解され、反映したかが更に重要であるということである。激烈な市場競争と繁栄の希求に明け暮れしている商工業界では市場調査といって機械まで使って PRの反映度を調べ事業の方向をみだしており、「知らしむべし」の時代から更に一歩進んだ現代社会の行政を担当リードされる官庁におかれてはこの点特に大切な問題ではなかろうか。

次に内容についてであるが新聞社がニュースバリューにより編集部で取捨撰択するように、担当者が読む側に立って求めるものを掲載していただきたい。自治体であろう、新聞社のそれとは自から異なるが、町すみみの小市民のささやかな問題にも心をくばる必要があると思うのである。

最後にこれは提案になるが紙面を項目により大別してはいかがであろうか。これも新聞に政治欄、三面記事等があるように農業、土木、教育等、見る人に目標がつかみよいようご配慮いただきたい所である。

とはいせ当「広報やちまた」は既に県内は勿論全国においても優れた広報紙として何回も表彰を受けられたことであり、私ごとき素人の言をまつまでもなく日頃研究をつづけておることと思われるが、より一層のご尽力により町民を結ぶ広報紙として全展のあらんことをお祈りし、つたない筆をおく次第である。

―榎戸に平和祈念の塔―

八街商工会議所　事務局長　新津義人

終戦の年昭和二十年の七月、当時朝鮮小学校に駐留していた旧陸軍の飯田哲雄伍長（埼玉県出身）は、榎戸地区で軍用のごうを構築中、土砂くずれにあい、なくなりました。当時、軍の手でその死を入れて、木の棺墨が建てられましたが、それもすっかり朽ちてしまいました。

このため、付近の人の有志が、こんと石碑を建てなおし、七月三日に飯田伍長の遺族を招いて追悼式を行ないました。

私たちは、残虐非道な戦争を防止し、心から平和を祈念しなければなりません。そのような意味からも、この石碑は、平和祈念の塔として八街の野に建てられたものです。

（写真は追悼式）

規則正しく事故防止

（右折は右手を水平に）

移動交通安全教室

移動交通安全教室は、千葉県警察本部と千葉県の通安全協会連合会が県内の各地で行なっていますが、七月五日、中央中学校で、佐倉警察署、所管内交通安全協会、八街町事故防止対策委員会の共催で行なわれました。

これは、校庭に白線で道路をかき、信号機や道路標識を取りつけ交通安全の基本を学ぶものです。

当日は道路の正しい歩き方や自転車の正しい乗り方などについて千葉県警の警察官から指導がありました。

正しい道路の歩きかた

・右側のはしを一列になって歩く

道路を横断するときは

・右をみて左をみてもう一度右をみて手をあげて渡る。